



えんどう ひろし
遠藤 浩 議員

津波警報

訓練成果は発揮されたか？

町長／成果が活きたと捉える

遠藤：7月30日のカムチャツカ沖の地震に伴い太平洋沿岸に広く津波警報が発表されましたが、住民避難および避難誘導は、どのような基準に基づいて行われたのか伺います。

町長：広野町地域防災計画に基づき、避難指示の発令、消防団員を招集し、双葉警察署の協力のもと、災害対応者の身の安全を考慮しながら必要な避難対応を行いました。

遠藤：エリアメールの配信や防災行政無線による避難放送は、津波警報の発表から何分後に実施されたか伺います。

町長：午前9時40分の発表後避難指示区域の設定から、1時間7分後の午前10時47分にエリアメールにて避難指示を発令、その1分後の午前10時48分に防災行政無線で放送しました。

遠藤：国道や県道の通行止めに関連して、町道の通行止めや警戒等の対策を取られたのか伺います。

町長：町道においては避難のための渋滞発生に配慮し、かつ避難経路を確保するため通行止めを行わないことといたしました。

遠藤：津波警報発表後も宮田地区において寄宿舎建設の工事を続けていたのが現認されています。

行政からの注意喚起は行われなかったと考えますが、町長はご存じだったか伺います。

町長：把握していませんでしたが、建設現場は町道本町・宮田線沿いにあり、環境防災課は5回以上巡回し、現場周辺の注意喚起に適切に取り組んでいます。



参集した消防団員



避難所の様子（公民館）

遠藤：毎年津波避難訓練を実施していますが、今回の津波警報を受けて訓練内容が十分に発揮されたとお考えか伺います。

町長：県や警察、消防団等の関係機関との協力体制、職員による避難所の円滑な運営や福祉避難所での丁寧な対応について、全体として訓練の成果が活きたと捉えております。

健康づくり

健康寿命の対策は？

町長／2次健康づくりの推進

門馬：町は、年代の身体的な状況等に応じた健康課題を的確に捉え、課題に応じた保健事業を実施しています。

特定健診・保健指導の有所見者状況は、心臓病や脳血管疾患等が多い状況にあります。

早期生活習慣病予防を目指し、健康寿命の延伸をしていくために、町としてどのように考えているのか伺います。

町長：町では、「第2次広野町健康づくり計画」を基に「家庭」「地域」「行政」それぞれの立場で取り組み、成果指標を設定しております。

具体的な取り組みとして、1つ目は、一人ひとりに応じた生活習慣の見直しや医療機関受診の勧奨。

2つ目は、持続可能な健康づくりを意識したトレーニングの推奨、民間企業との連携協定に基づく知見を活用した健康増進及び早期生活習慣病の予防。

3つ目は、保健師の家庭訪問などを通じ、生活リズムを整え、ストレスを軽減しながら十分な睡眠が取れるよう町民の方それぞれの

生活環境に応じた働きかけ。

これらの重点を置いた取り組みの積み重ね

が、健康長寿の延伸に結実するよう取り組んでいきます。

生活再建

町民への物価対策は？

町長／独自の支援実施

門馬：町は、国が進めた各種施策、町の要望支援策と合わせ、町独自の取り組みを押し進め、町民に寄り添った支援策を講じてきました。

現在、国は、国民の生活を安定させる各種対策を進めています。

町では国の施策にどう対応していくのか伺います。

町長：生活必需品の価格上昇は、町民生活に大きな影響を及ぼしており家計への負担増が顕著であると受け止めております。

電気・ガス等の光熱費の上昇が経営を圧迫し、町内経済全体への影響が懸念されています。

こうした状況に対し、町といたしまして国や県の制度を最大限に活用しつつ、臨時給付金の支給、宿泊事業者への補助金の交付、高齢者等のタクシー利用料の軽減など、町独自の支援策を講じております。

さらに町の復興創生に向けて中長期的に、エネルギーコストの安定化と地域経済の持続可能性を高める取組を進めてまいります。

今後も、国・県の新たな施策等と連動しながら、町民や事業者の声を丁寧に伺い、物価高対策を適時適確に展開してまいります。



もんま まりえ 議員



7月にリニューアルした保健センタートレーニングルーム